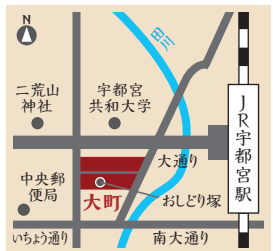




▲昭和5年ごろのおしどり塚



▲現在の大町通り



昭和の時代になつてからも、大町にはそうそうたる老舗の間屋が立ち並んでいて、私の家も菓子問屋を営んでいました。

街道には、大小の荷物を積んだたくさんさんの荷車が所

大町は、江戸時代、奥平家昌が宇都宮城主の時、この付近で大膳市が開かれたことが町名の起こりといわれています。

大町は、江戸時代、奥平家昌が宇都宮城主の時、この付近で大膳市が開かれたことが町名の起こりといわれています。

一段は大通りを歩くことが多いかもしれませんが、一本南へ入り、おしどり塚をご覧いただきながら大町通りを歩いてみませんか。

美しい民話が残るおしどり塚です。

現在の、大町通りを中心に商店街があります。

そんな大町でしたが、物流の手段が、人馬による荷車から自動車へと移り変わるにつれ、それまでであった問屋は一軒、また一軒と郊外へ移っていきました。

狭しと行き交っていました。問屋の大きな倉庫は、子どもたちにとっては絶好の遊び場で、毎日のようにいろいろな倉庫に出入りして遊んでいました。



現在の一番町辺り

古いまちの呼び名と  
とばれ話を紹介します



宝生流能楽師

安久都 和夫さん